

花まる農家紹介

栃木県大田原の水口博さん

「メダカのがっこうが目指している日本の自然再生に貢献する田んぼを本当に良く理解して下さっています。まだ雪が残る2月はじめ、水口農場に田んぼの生きもの調査に出かけて、いろいろお話を伺ってみると、親の代から無農薬栽培をしているという筋金入りの花まる農家でした。生きる環境に対する理解が深いのは、私たちととても近い意識を持っているからだと感じました。

田んぼ組田んぼの台帳

氏名	水口博		
住所	栃木県大田原市荻野目 358		
地番	栃木県大田原市荻野芽 499		
面積	300a	環境復元型農業を始めて...6年	
農法	不耕起・冬期湛水(冬・水・田んぼ)		
品種	コシヒカリ	種	自家採取
農薬	不使用	消毒方法	稲抽出酵素
肥料	米ぬか、くず大豆、おから原料の自家製堆肥 海底隆起古代海藻魚介ミネラル、液化ミネラル、微生物酵素2種(きのこ抽出と稲抽出)		
過去3年の収量(10a当り)	8.5俵	9俵	8俵

おコメ情報

おコメの味を決めるのはミネラルと地力、その点、水口さんが親の代から無農薬で、微生物たちの働きを活かす土づくりをしてきた上に、博さんの代で投入してきた自家製堆肥と海底のミネラルがとても美味しいおコメを育ててくれています。

また毎月送られてくるおコメは、水口さんの律儀さが現れている板のような真空パック、玄米でも石も初殻もなく、消費者には嬉しい間違いがない商品です。



水口さんちの前に広がる3.5町歩もの水張り田んぼは湖のよう



水口さんご夫妻からのメッセージ

“私たちは、メダカのがっこうが目指している環境を取り戻す田んぼづくりの考え方に賛成なので、田んぼ組に入りました。これから生きもの観察や調査をしながら、今まで気が付かなかった生きものたちの営み、命のつながりなど、自然体験できると思うと楽しみです。”

水張り田んぼは地力を保つ優れた農法

冬期湛水2年目、田んぼに水を張ることが、草を抑え、地力を保つことが分かり、今年から450a(4町5反)に広げました。これだけ水面が広がると、ちょっとした湖のようです。水は井戸水、親の代に掘った井戸があるので、冬でも水に困ることはありません。

水口さんは、自家製堆肥づくりを工夫し、地力をつけることに力を注いできました。堆肥置き場には湯気が上がり、米糠、くず大豆、おからなどの有機物を自家培養の菌とミネラルでバランスよく醗酵させています。

不耕起栽培ははじめの1~2年で問題をクリアするととても楽になるそうです。

地力がつくと困るほどの草は生えない

彼は野菜づくりも名人です。特に水口さんのニンジンが甘くて有名です。彼は「ニンジンから宇宙へ」の著者である大分の赤峰勝人さんを尊敬しています。雑草についての水口さんの見解は、「草が生える場所は何らかの問題があるんですよ。自然には不思議な力があります。家はずっと無農薬で土づくりとしてきたから、もう邪魔になるような草は生えませんが」という卓越したものです。

●ある日の生きもの調査データ

調査月日・時刻		大田原水口不耕起冬期湛水
04.02.07 11時30分～		
水 1 0 生 生 a 物 あ た 調 り 査)	センチュウ	2,000
	イトミズ類	14,000
	ミジンコ類	326,000
	コミスムシ	2,000
	ユスリカ	798,000
	ヤゴ(イトトンボ)	2,000
	トビムシ	286,000
鳥 類	タケリ	確認
	セグロセキレイ	確認